神奈川大学　教職課程指導室

学校ボランティア通信

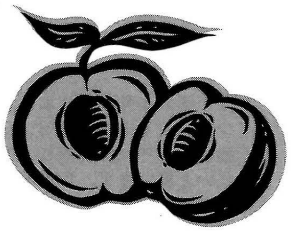
第11号
発行日2009年　月　1日

内容

・教育実習・教員採用試験に向けて　曽根康文
・ボランティア活動を通しての気づき　寺澤智恵美
・中学校教師になるのに向けて　山田美沙
・一年間のボランティアで見えたこと　田下由布子
・ボランティア活動を通して学んだこと　石田敏之
・心を込めて接する　伊良部温野

教育実習・教員採用試験に向けて

経済学部経済学科3年　曽根康文



私は2008年11月から横浜市立松本中学校で社会科の授業アシスタントとして参加させてもらっています。学校ボランティアは授業の合間に入れているので、1週間のうち火曜の午前中しか出ることはできませんが、それでも実際の授業を見て学ぶことができるのでとても参考になります。主に活動することは机間巡視で、生徒がプリントに記入したり話し合ったりするときにサポート役として生徒の活動を見て回り、質問があればそれに応対したり、勉強と話がそれてしまうグループの活動を見たりと生徒との積極的なコミュニケーションをとります。また大学生の立場から授業の内容の説明をさせていただいたり、意見を発表することもあります。私は経済学部なので政治経済の分野ではたまに生徒の前で説明をしました。

現在のところ以上のように授業のアシスタントをやりながら先生が授業をしているときは後ろの方で先生の授業のやり方を見て、ノートにメモを取ったりしています。また授業のプリントも配布されますので、プリント作成の参考になっています。

いつも学校ボランティアで心掛けていることは、授業の際に先生の板書をノートに写すだけでなく、生徒の活動について注意して書いています。生徒の活動の場を与えることで、授業に対する興味を引くことが授業づくりの中で重要になってくると考えています。先生がどのようにして生徒に発言の機会やプリント活動などを工夫しているのかを参考にしたいと考え、そこに注意して授業を拝見しています。

学校ボランティアを通して私は様々な事を学ぶことができました。学校現場での活動は通常でしたら教育実習の2週間か3週間しかありませんが、教育実習前に授業に参加させていただき、生徒とのコミュニケーションをとり、学校に慣れることができます。また、担任の先生からは授業作りのこつや、生徒とのコミュニケーションなどで気をつけることなど、親切に指導してくださるので、とても充実した時間をすごせます。

この学校ボランティアを通して、教師に必要な知識を身につけ、今年の教員採用試験に合格するためにもいっそう精進をしていきたいと考えております。

ボランティア活動を通しての気づき

人間科学部人間科学科3年　寺澤智恵美

私は、二年生の五月から戸塚中学校でボランティアをしています。現在は火曜日と土曜日に行っています。

主な活動内容としては、平日は個別支援級での授業への参加・保健室で生徒と話をしたり、勉強の補助・社会科の授業見学・校内の見回り、清掃などです。土曜日は、土曜学校といって授業の復習や苦手分野など、主に担当の生徒と一緒に勉強しています。また、五月には二年生の自然教室に学生ボランティアとして参加させていただきました。

実際に学校という場所で生徒たちと関わり、触れ合う中で学ぶことは数多くありました。その中で私はこの生徒はこういう生徒、というように決めつけないことを大切にしてきました。いろんな角度から見たり聴いたりすると、その生徒のいろいろな一面が見えてきます。これはボランティア活動を通して学んだことです。

現在私は学校の中で三年生と接する機会が多くあるのですが、話す内容も最近は受験や卒業、将来のことなどが増えました。受験に対する不安や高校生活で楽しみなこと、将来やってみたいことなどを聴いたり、時には私に問いかけてくることもあります。「どうして勉強しなきゃいけないの？」「どうして学校に来なきゃいけないんですか？」この二つはとても考えさせられた言葉です。きっと正しい答えはないだろうし、生徒も○○だからという答えだけを求めていたわけではなかったと思います。教職の先生方や同じボランティアのみなさんに話すと、いろんな言葉が返ってきました。このことだけではなく、ボランティアをしていて感じたことやどうしたらよいのかと思うことなどを先生方や学生・地域のボランティアのみなさんと共有することはとても大切なことだと思います。そこで新たな気付きや学びが生まれることも多くありました。

戸塚中学校での経験が私にいろいろなきっかけを与えてくれました。これからも生徒たちと一緒に学び成長していきたいと思います。

中学校教師になるのに向けて

外国語学部英語英文学科4年　山田美沙

私は、昨年2月から戸塚中学校で、4月から斎藤分小学校でボランティア活動をしています。

戸塚中学校では、平日に保健室登校している生徒の学習援助や個別支援学級の生徒の支援をしています。

土曜日には、補習クラスの学習補助（「実り隊」土曜学校）に関わっています。

斉藤分小学校では、英語活動の授業サポートをしていますが、３・４年生と個別支援学級を担当しています。

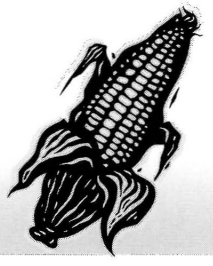
ボランティアを始めてから早いもので1年が経とうとしています。1年間やってきていろんなことを経験できたという気持ちが一番強いです。何より実際の学校という現場に関わることができ、生徒たちと触れ合えることがとても貴重な時間です。

中学校では様々な悩みや想いを抱えて保健室に来ている生徒がいることが多く、どのように生徒と関わっていけばいいのか学ぶことが多くあります。個別級の支援では悩むこともあります。どのように一人一人の生徒の個性を理解したうえで関わっていくのか未だにわからないことが多く大変です。先生方との連携が大切だと思いつつもうまくいかないのが現実です。ただ、自分ができることをまずやってみることが第一歩なのかと思います。気づいたことやわからないことはまず伝えてみることが大事だと思いました。

土曜学校は生徒数も増え、活動は地域の方々と共に活性化してきていると思います。これからも神奈川大学の学生がその活動の力になっていけたらいいなと感じます。とても楽しみながらボランティアを続けてこれたと思います。これから地域の方と学校の連携はより必要になっていくと思うので、これからのための貴重な経験をできたと思います。

小学校においては、小学校からの英語教育の過程に携われたことが何よりとても良い経験でした。実際に大学で学んでいることを活かす機会もあり、小学校と中学校の連携教育という大切な課題を身を持って感じることもできています。これから中学で英語を教える立場になったとき、このボランティアでの経験を活かせていけたらと思います。

1年前、こうしてボランティアをしようと決心したことがたくさんの経験と出逢いへと繋がりました。これからも様々なことに意欲的に取り組むことを忘れずにいたいと思います。



一年間のボランティアで見えたこと

外国語学部英語英文学科3年　田下由布子

私は週に一回浅間台小学校でボランティア活動をしています。４月から夏休み前までは主に一年生の授業に入り、授業についていけない児童の補助や、落ち着かない児童についていました。夏休み後からは一年生も学校に慣れたこともあり、全体的に落ち着いたので他の学年に入ることが多くなりました。それまでにも朝の開錠の際や課外授業などで関わったことはあったのですが、一人ひとりと関わるのは初めてだったので、最初は一年生との関わり方の違いに戸惑いました。一年生はすぐに私を「先生」として接してくれたのですが、学年があがればあがるほど時間がかかった気がします。先生として頼っていいのか、どこまでやってもらっていいのかという児童の私に対する疑問が伝わってきたように感じたのです。また、私自身も「先生」と呼ばれながらも、児童よりも学校に関してはわからないことが多かったので、どこまでできるのか、やっていいのかがわからず、あいまいな態度をとってしまっていたのかもしれません。その戸惑いが児童に「頼りない」という印象を与えていたのでしょう。児童を一人ひとり見ること、そして接すること、しかしそれだけでなく一貫性を持って児童に接することによって私自身も自分を出し、「頼れる」存在になることが大切だと思いました。

児童は一人ひとり日々成長します。一週間に一度しか会わない私でもその成長を感じることができました。その成長は、個人差はあるもののその子どもにとって大きな一歩になると思います。児童の成長を見守ること、そして成長を認め、個々を認めることもまた、教師の大事な仕事だと改めて感じました。

学校ボランティアに参加して客観的な立場で学校現場に入ることができました。ボランティアとして行く前までは、小学校に入ったのは私が小学生の時が最後だったこともあり、小学校や小学生と遠ざかっていました。そこで、先生でもなく、児童でもないボランティアとして参加することで、見えないことをたくさん見るとこができました。

ボランティア活動を通して学んだこと

人間科学部人間科学科3年　石田敏之

私は、昨年4月から週に1日、大口台小学校でボランティア活動をしています。おもな活動内容は、1年生のクラスの授業補助です。授業中に席を離れたり、騒いだりする子を落ち着かせるといったことを中心にやっています。しかし、普段はその子にべったりついているのではなく、クラス全体を見ています。1年生という、心身ともに非常に成長する時期ですので、ボランティアに行くにつれて成長していく姿を見ることができ、非常に楽しんで活動しています。算数や国語で、問題の丸付けを先生と分担をして行うこともあります。そのほかに、時折、自習クラスの監督に行くこともあります。このとき、子どもたちの前に立つことができ、実際の授業の雰囲気を味わうことができました。

また、10月に、第4学年の宿泊体験の引率をさせていただきました。実際の先生方の動きを見ることができました。子どもたちが休んでいるときでも、先生方は何かしらの仕事があり、本当に休むのは寝るとき以外にはないというほど多忙でした。教師という仕事の大変さと責任の大きさを感じることができました。特に、無事に学校へ戻ってこられたときの安堵感は大きかったです。

ボランティア活動を通じて、なによりも、子どもたちとの接し方、話し方を学ぶことができたと思います。また、先生方の授業展開は、私が今後、教壇に立つ上での参考になりました。また、先生の動きや、職員室での様子を見ることができ、先生の仕事内容の一部を見ることができました。今後も時間の許す限り、ボランティア活動を続けていきたいと思います。

心を込めて接する

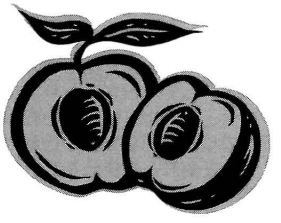
法学部自治行政学科卒　伊良部温野

「心を込めて接する」･･･これは3年前、小学校でボランティアを始めた私が秘かに決意したことです。しかし実際は慣れない環境の中で、そのようなことを考えることも殆どなく、毎週のボランティア活動を行ってきたように思います。そんな私にとって、この一年は「心を込めて接する」ことについて改めて考えさせられた年でした。

現在私は、非常勤講師として横浜市の小学校で主に理科の授業支援をしているのですが、私が受け持っているクラスには、問題児と言われているＡ君がいました。Ａ君は授業中に教科書すら出さず、いつも周りの子にちょっかいを出したりふざけたりして、担任の先生から注意ばかりされていました。そしてそのような場面を初めの頃に見ていた私もまた、Ａ君に対して良い印象は持っていませんでした。そんなある日、授業のなかでＡ君と２人で話す機会がありました。そのときにＡ君がこんなことを言い出したのです。「担任の先生はぼくが勉強をしないっていつも叱るんだ。でもぼくは勉強が嫌いなわけじゃなくて、授業でやっている勉強はもう解るから、つまらないだけなんだ･･･。」私はその言葉を聞いて、今までいかに自分がＡ君を一面だけで見ていたかということに気付かされました。そして私は授業支援をそつなくこなそうとするあまり、心を込めて子どもたちと接することを忘れていたのでは･･･と考えさせられました。

私はＡ君が授業に集中しないことをただ悪いことだと思い、その背景にあるＡ君の現状や気持ちを理解しようとはしなかったのです。しかし本来、子どもたちは一人ひとり個性があり、一人ひとりに違った良さがあります。私はこの出来事を通して、一つの視点から子どもを見るのではなく、その子の現状や気持ちをさまざまな視点から見ることの大切さを改めて実感しました。そしてそのことが「心を込めて接する」ことにもつながっていくのではないかと思います。わたしが心を込めてＡ君とかかわるようになると、Ａ君も本気で私と向き合ってくれるようになりました。興味のある草花の話しをしてくれたり、得意な実験の話しをしてくれたり･･･。私は、Ａ君とのかかわり合いのなかで、児童を理解することの難しさとそれ以上にそのことの大切さを知ることが出来ました。

周りの人々に支えられ、私はこの4月からずっと夢だった教師になります。3年間、ボランティアとして、また非常勤講師として学校現場に携われたことは、私のなかで大きな意味をもつものとなりました。もちろん、時には悩んだり、壁にぶつかることもあります。しかし、そのような状況のなかにおいても、子どもたちから学びとることは本当に沢山あります。これから訪れる教師生活のなかで、私は子どもたちの無限の可能性を信じ、そして自分の可能性も信じながら、子どもたちとともに成長できる教師になりたいと思っています。

神奈川大学　教職課程指導室

電話 0454815661
FAX 0454134154
Email: educ@kanagawa-u.ac.jp